

6月例会報告

【日時・会場】2002年6月20日(木) 19:15～筑波大学附属高校会議室→～2:00 カリンカ

【参加者(会員)】浦和俊介(名古屋大学) 笹原勉(日揮) 内藤隆(横河FC) 中村敬(サッカーコーチ) 中塚義実(筑波大学附属高校) 宮崎雄司((有) オフィスアステカ代表「サッカーマニア」編集長)

【カリンカから参加】堀美和子 松下徹

注) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

「それぞれのワールドカップ」中間報告会

6月の月例会では「それぞれのワールドカップ」中間報告会ということでW杯2次ラウンド準々決勝を前日に控えた6月20日にサロン各位のW杯での楽しみを報告し合い、残り10日あまりとなった大会を楽しんでいこうと言う意図のもと行われた。

今回のサロンは浦和、内藤、中村、宮崎、中塚の5名で会は始まり、後から笹原氏が到着した。それぞれのW杯における活動について以下報告する。

<目次>

★浦和俊介

★内藤隆

★宮崎雄司

★中村敬

★中塚義実

★笹原勉氏

<今回の取りまとめの感想(浦和俊介)>

<感想・意見(中塚義実)>

★浦和俊介

和歌山でのデンマークキャンプ訪問とデンマーク対チュニジア戦観戦、6月3日新潟でのメキシコ対クロアチア戦観戦、6月16日ラグビーWカップアジア予選@国立の3つについて報告した。

1. デンマークキャンプ@和歌山訪問記

私は23日の夜に和歌山入りし旧交を暖め24日の午前には友人に和歌山市内を案内させ、午後からの公開練習と25日の和歌山サッカー界空前絶後の国際Aマッチになるであろうデンマーク対チュニジアを見に行った。

街のなかでは市とサッカー協会だけでなくJCが中心となってデンマークの旗、のぼりを大量に立てており事前キャンプだけですがなかなかの受け入れ態勢だったと思う。

和歌山市内のスポーツ店ではお店の一番いいところにデンマークのユニフォームや関連グッズ、ヒュンメル製の製品が並んでおり和歌山市を中心とした地域でのヒュンメルのイメージはかなりあがったのではないかと思う。

和歌山市郊外の紀三井寺競技場での公開練習では最初に15分のメディアセッションがあり、デンマークのメディアがかなり取材に来ていた。そして取材を受けない選手から各自アップをして4-5人で鬼回しをしていて日本のようにみんなでアップをしないところからお国柄の違いを感じた。

余談ですが練習中ずっと私は現役選手よりもコーチのMラウドルuppばかり見ていた。若干お腹に貫禄がありましたが鬼回しでもアウトサイドを使ったパスなどテクニックの片鱗を見せてくれた。いまだに代表23人の中に入っても技術は最上級というのがすばらしいのか現役がだらしないのか？

25日の試合では会場最寄り駅からのシャトルバスも機能しておりボディチェックもまずまずスムーズで気持ちよく場内に入ることができた。席は指定ではなくブロック指定だったがスタッフの方が席を詰める交渉をしたりしてできるだけ多くの方に座ってもらおうとしていたのが気持ちよかった。

試合のマッティディプログラムも工夫してあって表面がデンマークの国旗、裏にメンバー表があり選手入場時などに会場の雰囲気盛り上げるためにも使用されていてよく考えられていたと思う。前、後半のキックオフ時には二万人近い観客がパンフレット描かれたデンマーク国旗を掲げてデンマークを応援していた。レプリカを着用して応援していた方も多かった。

試合中は割におとなしく観戦といった感じでしたが和歌山のホスピタリティは十分にデンマークにも伝わったのではないかと思う。

試合後もシャトルバス、鉄道共に連携が取れておりまずまずスムーズに帰れた。車で来場された方は渋滞に巻き込まれたようだが。

和歌山では事前キャンプとAマッチー試合だけの一週間程度の滞在だったのでスタッフの方も疲れる前に仕事が終わったと思う。全体的に心地よい対応を受けることができた。

Wカップを契機にこれからも何らかの形でデンマークと和歌山がスポーツを通じて交流していくことが

できれば素晴らしいことだし、ベニユーではない地域でも日本が W カップを開催する意義が生まれると思う。和歌山のスポーツ界のこれからの期待したい。

2. メキシコ対クロアチア戦@新潟観戦記。

6月3日、新潟へは早朝に夜行列車で到着したが、駅には誰もおらず8時頃に市内を放浪したあと帰ってきたらようやく両国のサポーターが駅にあふれ始めていた（前の晩は両国サポーターが駅前で酒盛りをしていたらしいが）。

駅で飲食物を調達して10時頃に新潟駅を出発し歩いてビックスワンへ行った。ビックスワンまでは約4キロ、小1時間ほどで競技場に到着した。

その間一本道だったがそこここに新潟市のボランティアの方が立っていてまだ配置に着いたばかりだったのでまだ余力があったからだと思うのだが笑顔で行き交う人たちに挨拶していた。競技場までの時間を手作りのボードを出している方もおり非常に癒された。

競技場前では新潟物産展のようなものをやっていて広場にはメキシコサポーターが大量にいてお祭り状態だった。アステカの王様のような格好をしたひともいたりしてさすが W 杯かなと思った。メキシコサポはビバメヒコカブローニャスと呼びかければたいていの人が応えてくれるし非常にフレンドリーな感じの方が多かった。

メキシコ人はみなドンタコス宣伝でかぶっていたようなハットを着用。出国の際にチェックされているのだろうか？

マイクラブのグッズを持っている人も多く「アメリカはメキシコのチャンピオン！ジュビロは日本のチャンピオン！！」と騒いだりして代表とクラブ両方を楽しむスタイルがいいなと思う。応援しているデンソーサッカー部のユニフォームを着ていた私はメキシコ人にエクアドル？ときかれたがローカルチームだといったら納得してくれた。

帰りも歩いて帰ったのですがそれほどの混乱もなく帰れた。途中にはコンビニなどもありそれぞれのペースで帰れたと思う。

3. 2003ラグビーワールドカップアジア予選@国立観戦記

2003年ラグビーワールドカップアジア地区の出場枠は一つ。それを日本、韓国、中華台北の三チームによるホームアンドアウェー方式で争う。6月16日は第一戦の日本対韓国が東京国立競技場で行われた。

当日国立競技場には2万5千人の熱いラグビーファンが集まり熱心な応援のなか無事 90 対 24 で韓国

戦勝利した。前半は韓国代表の早い出足と思いきりのいい動きについていけずリードを許すも自力で勝る日本が突き放し後半はノートライというおまけつき。サポーター席として前売りは旗付でバック中央を 2000 円、当日は旗なしで 2000 円という価格設定にして多くのファンが旗を振りながら応援できるようにしたことも大勝の原因ではないだろうか？

結局 66 点差という対韓国戦最高得点差で日本代表は韓国代表を粉砕した。試合後は選手がスタンド前まで来て万歳三唱をして選手と観客が一体になったという日本ラグビー界にとって歴史的な瞬間だったと思う。まだアウェーの韓国戦を含み残り 3 試合あるが取りこぼしのない限り大丈夫でだろう。2003 年ラグビー W 杯、桜の日本代表に期待したい。

★内藤隆

仙台での日本トルコ戦での様子と W 杯競技場内でのスポンサーブースにおけるイベントを中心に報告した。

仙台での日本対トルコを中心に 4 試合 W 杯を観戦した。W カップではスポンサー企業が宣伝のためにブースを設置しており、大声コンテスト、ボレーシュートのあてコンテストなど観客が参加できるブースが大量に設置されていた。そのなかでボールを蹴ったこともない人がブースでボールと楽しんでいたり印象深い。下手な人、ボールを蹴ったことのないおじちゃん、おばちゃん、おねえさんが楽しくボールを蹴っていた。また、サッカーの盛んな国から来た人でも下手な人はいるんだという新しい発見もあった。

自分が働いている横河 FC でも観客を対象に「ふれあいイベント」と銘打って芝生の上でボールを使って楽しめるイベントを企画しており、対象は大人を含めた観客全員なのだが、参加してくれるのは少年が中心になってしまう。大人が参加する要因の一つとして、企業が配る記念品もあるのではないかと？ スポンサーの効果を最大に発揮させる為の大企業の力は凄い。

横河 FC でも地元や取引先から商品をもたらってきたりはしているが、これからは大人の人（特にサッカーを実際やったことのない人）が参加できるような仕掛けを考えたい。実際にボールを蹴ったり触れたりすることがファンの成熟度を高める一要因となることだろうし、新たなサッカーファンを作ることにつながるのではないかと。

ゴール裏で観戦したのだが、W カップも半ばを過ぎていたからか、仙台ではサポーター集団(ウルTRAS などに)属してなさそうな人が周りを乗せるようにコールを始めていた。所々でそういう人物が現われた結果、スタジアム全体での応援の統一感というものが薄れてしまったのかも知れないが、それ自体は素晴らしいことだと思う。各自が、指示されてではなく、声を出してゲームに参加していく気分が生まれてきていることはいいことだと思う。

スタジアムの雰囲気ということでは 9 レーンの陸上トラック、障害競技の水壕までもがある宮城スタジアムはやはり問題なのではないか？このスタジアムはサッカーが非常に見難い。陸上は 4 万人も集客できるイベントは世界陸上くらいしかない。その上にバスに乗っていくのだが、車窓から馬が見られるくらい都市部から遠いし、仙台には日本最高級の球技専用スタジアムである仙台スタジアムがある。仙台スタジアムの前でバスに乗り換えるのだが、サッカー専用スタジアムがあるのに見難くて遠いスタジアムへ行く理由が見当たらない。大会後のことが考えられていないので、このスタジアムの今後はかなり危ない。長崎の軍艦島のような遺構になるのでは？

私が見ていた限りでは、日本敗退後もお祭りのような雰囲気はあまりいつもと変わらず。もっと悔しがってもいいのではと思う。

余談だが、日本戦ではフェイスペイントを顔中にしていたら「子供と写真を撮って欲しい」と言われたり、サポータービレッジで人気者に。思い切りが大切

★宮崎雄司

日本対ロシア戦を中心に都内での W カップの様子を報告した。

対ロシア戦の一週間前に、横須賀に保存されているバルチック艦隊を撃破した戦艦三笠で戦勝祈願をした。いつもはバックで観戦するが、今回は日本の勝利を祈りゴール裏で応援。長年サッカーを観戦しているが、レプリカも初めて購入。近所では当日、日本戦のチケットを持っているということで羨望のまなざしを受けた。

これまでの W 杯のなかでテレビ観戦がしやすい。会社によってはトルコ戦のとき電話線はずして社員全員で観戦したと聞く。W 杯の非日常が日本で受け入れられていることが素晴らしい。20 年前には考えられなかった。

下町の日常、例えば電車のなかや駅にアイルランド人が大量に現れて写真をとったりしていることが違和感なく受け入れられた。異文化交流が自然に行われたことは素晴らしいことだ。

★中村敬

地元での個人的なサッカー観戦会を中心に報告した。

実家が下町で父親が経営している工場の二階が貸しスペースなのだが、空いているので父親に相談して貸してもらい、個人的にパブリックビューイングを行った。

友人何人かで実行委員会をつくり、近所の電気店に話をしてテレビを借りたり、実際に見に来てくれた

地域の方からビールケースをもらったりと、物心両面での支援が得られた。サッカーを通じて年齢の差を越えてあちこちで話が盛り上がったことも成果の一つ。

広報は、実家の前をはじめ近所に貼った。友人、知人の家の前などだけでなく、新しく建った大きなマンションにも許可を得て貼った。近年下町では大きなマンションがあちこちに建っているが、旧住民と新住民の接点がないので、このような機会を通じて接点を作りたかった。その目的はそれなりに達成されたと思う。

30日の決勝でもこの試みは行う予定。W杯をきっかけに新旧住民の交流が盛んになればと思う。

★中塚義実

日本での活動、韓国への観戦旅行について報告した。

1. 日本にて

5月中は教育実習の対応に追われていて、個人的には何も出来なかった。31日の教育実習打ち上げの際に、地理教室で「パブリックビューイング」を試みたことが、日常の中の非日常の始まりか。

6月4日のベルギー戦は競技場で観戦、10歳の息子も連れて行った。浦和美園駅前のイベントコーナーで、カメルーンの人たちがなぜかカレーやさんをやっており、息子は初めて黒人と対話した。ロシア戦も競技場で観戦。大いに盛り上がった。

サッカー部の生徒たちは、いろんな企画を試みている。HPでも紹介したが、過去のワールドカップを振り返るビデオ鑑賞会を定期的に行ったり、年2回やっている校内フットサル大会で、今回はW杯出場国名で参加する（その結果「日本、ロシアに快勝！但し校内フットサル大会」の見出しで朝日新聞東京版でも報道された）企画など、いろいろおもしろいことをやっていた。

その一環として、14日のチュニジア戦は物理実験室に大型スクリーンを設置して、生徒が集まって観戦。日本代表の青のユニフォームを着た高校生約200人が物理実験室で（入りきらなかった生徒は生物講義室にて）観戦した。ちなみに顧問不在の18日のトルコ戦のときも物理実験室でのパブリックビューイングは実施され、今度は292人の生徒が大騒ぎしながら観戦したらしい。ようやるわ。

2. 韓国にて

15～19日まで韓国に行った。ポルトガルのTST（希望したチームの試合を見ることの出来るチケット）を持っていた教え子から、R16のゲームを譲ってもらうことになって出かけたのがそもそものきっかけ。現地の孫さん（中央大学。日本のそれとは関係ない。スポーツ史研究者）と連絡を取り、行動をとも

にした。ところが当のポルトガルは1次ラウンド敗退。その場合、このチケットは同グループ一位チームのゲームを観戦できるらしく、韓国対イタリアを観戦できることになった。

飛行機は往復2万7500円。大阪行くよりも安い。けど宿泊が、日本で取ると高かった。

成田空港は、1次ラウンドが終わって各国のサポーターが目についた。普段着で行った私は空港で日本代表のはっぴを購入して羽織っていたのだが、ものの30分でエクアドルのウィンドブレーカーと交換することになった。すでに国際交流モード。交換してから出国した(ちなみにその人物はメキシコ人だった)。

韓国ではいたるところに街頭ビジョンが設置されていた。日本では警備上及び放映権の問題で行っていないが、韓国では至る所でビジョンがある。FIFAからクレームが出ているという話も聞いた。

16日は水原でスペイン対アイルランド戦の雰囲気を味合うためにスタジアム周辺を散策。スペインはおとなしかったがアイリッシュが「アディオス、エスパーニャ」と歌っていた。韓国の宗教関係者も多数出没。韓国は企業がブースを出している2次ゲート付近までチケットなしでも入れた。

韓国が進出すると考えられていたアメリカ対メキシコ戦(グループD2位がアメリカ)のチケットが市内に大量に流出していた。約2万円でカテゴリー1チケットを購入。17日は全州にセマウル号で移動。スタジアムまではバスで移動。客席が急角度のスタジアム。豊田スタジアムに構造が似ている。スタジアムの前にも大画面のビジョンがあり、チケットを買わない人はそれを見ている。周辺には機動隊も大量に待機。しかし揉め事などもなく見る事が出来た。

スタジアム近くの全州の大学(日本の県立大学みたいな感じ)のグラウンドで、18日の韓国vsイタリア戦の上映会をするという看板があった。近くの公園の中にもビジョンがあった。

一次リーグ突破の段階でヒディングは英雄扱い。18日は前祝的に食事をただにする店もあった。

18日。15:30からの日本対トルコ戦は、スタジアム近くの温泉ホテルの休憩室のテレビで観戦。トルコが点をとったときに韓国人は歓声。しかし、そこにいた大韓蹴球協会の専務の方が「日本と韓国で共催しているのだから応援しよう」と言ってくれた(らしい。孫さんによる)。

夕刻、イタリア対韓国戦を競技場で観戦。試合前からアリランの大合唱。報道でもあったようにソウル市庁舎前で50万人が街頭テレビで観戦するなど、スタジアムだけでなく国中で大騒ぎ。

スタジアムの雰囲気がヨーロッパにはないものらしい。ヨーロッパではチャンスの時にスタジアムが沸く。しかし韓国では試合状況に関係なくお祭り騒ぎ。ヨーロッパのチームはピンチだと勘違いしてリズムが狂うので韓国が有利に試合が出来たらしい。

試合前の国家斉唱は、腹のそこから大声で歌う。応援のコールは、ゴール裏に終結しているレッドデビルズ（チケットを手配しているのでは？）が中心となってそこから始まる。コールはまず「テーハミング、チャチャンチャチャンチャン」、そしてアリランの大合唱。その他、歓喜の歌のリズムで「テーハーミング、テーハミング、テーハミング、コーリア」など。Jリーグで聞いたような歌もあった。日本のように選手コールもある。

アン・ジョンファンの決勝ゴールのあとスタジアムは半狂乱状態。「テーハミング」の大合唱。自衛のためか赤いシャツを着た日本人も多数いた（私は青い日本代表のユニフォームに、韓国の赤いバンダナを頭に巻いて観戦）。

ゲームとしては、韓国の近代化にびっくりした。昔はマンマークで守ってスイーパーからのロングボールを競り合っただけをシュート、シュートは「宇宙開発」といった感じだったが、3-4-3で戦術的にしっかりプレーしていた。1年半での変わりように驚いた。ヒディングは過度な年功序列をなくすために、例えば昼食の際の席を指定して、先輩後輩の語らいの場を作ったりもしたらしい。昔のオフを思い出す。

大田のスタジアムは市街地から非常に遠く、シャトルバスで移動するのだが、大田市街地にあふれかえった人のため、シャトルバスはなかなか戻ってこず、大混乱だった。結局バスは市街地に入ることが出来ず、予定地の手前で下車して駅まで歩くことになった。「チュッカ（祝賀）ハムニダ」と韓国の勝利を路行く人と祝い、韓国の人と交流した。

朝の2時の電車に乗って4時ごろソウル駅に着いたが、車の屋根に乗って旗を振っている人も多数いた。韓国中、夜通し大騒ぎだったようだ。警官も流れに任せていたのでは？

★笹原勉氏

横浜市でのW杯に向けての活動について報告した。

横浜でJCが中心になって「ASKME」と書いたバッジを配布。日本人からは声をかけられるが外国人からはあまり反応はない。しかしこのバッジをつけていれば声をかけやすいのでは？と思う。付属の対話集は間違いもある。

その他自宅の前の横浜市の下水道の工事事務所の壁にWカップに関連して32カ国の旗と頑張れ日本の横断幕が。工事事業者ではなくベニューでもある横浜市の指導だと思いがよくわからない。日本敗退後は頑張れ韓国に変わっていた。共催国も応援しようということだと思ふ。

以上サロン会員はそれぞれのスタンスでW杯を楽しんでいることがわかった。中村氏のように積極的に

サッカーを通じて交流しようとしていることは素晴らしい。サロン HP のワールドカッププロジェクト 2 を活性化するためにも会員各位書き込み、レスポンスをお願いしたい。

< 今回の取りまとめの感想（浦和俊介） >

まずまとめが遅れたことをお詫びいたします。できるだけ早くしなくてはと思っていましたがようやく終わりました。ざっくばらんに話をしているので話まとまりがない（特に自分）のでうまくまとまっているか不安です。

学生の方の積極的なサロンへの参加、報告書作製の申し出を期待します。サロンを自由な意見と時間を生かして活性化していきましょう。

< 感想・意見（中塚義実） >

それぞれのワールドカップの楽しみ方が非常にユニークでおもしろかった。サロン会員は濃い方が多いので、相当濃い楽しみ方をそれぞれがされたことだろう。シンポジウム、合宿等で皆さんの体験を聞くのが楽しみです。

身近で起きた"物語"を、皆がHPにちょっとずつ書き込むとおもしろいだろう。思い出話でもかまわないのでどんどん書き込んでもらいたい。

今回の大会で、今までサッカーに見向きもしなかった人たちがのめりこんでいくのがよくわかった。その人たちが体験したワールドカップも聞いてみたい。そしてその人たちも含めて、サッカーをいかに日常化するかがポイントだろうと思う。

8月3日と10日のシンポジウムでいろんな話ができればと思います。

以上